

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名	ナショナルデータベースによる腎性貧血治療の関連因子探索
所 属 機 関	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科
氏 名	西 裕志
<p>厚生労働省は平成21年よりレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を構築している。保険請求情報の95%以上が集められたNDBは、保険診療の特徴を明らかにする上での有用性が期待されている。今回平成27年度分のレセプト情報を抽出した第2回NDBオープンデータを元に、慢性腎臓病（CKD）関連するエリスロポエチン製剤（ESA）、さらにリン吸着薬、高カリウム血症治療薬、球形吸着炭、の都道府県別処方量を比較した。また、CKD患者あたりの処方量と、各種医療・社会的因子との相関係数を求めた。さらに、男性率、人口密度、世帯収入、病床数、腎臓専門医数を説明変数として多変量解析を行った。1年間の総処方量は、ESAが2,373,777本、リン吸着薬が585,485,115錠であった。CKD患者あたりのESA及びリン吸着薬の処方量は、それぞれ6.1、4.9倍の都道府県差があり、いずれもCKD患者あたりの腎臓専門医数と有意な正の相関（いずれも$r=0.69$）があった。多変量解析では、CKD患者あたりの腎臓専門医数のみがCKD患者あたりのESA及びリン吸着薬処方量の有意な説明変数であった。比較的均一な医療制度下の本邦においても、CKD関連薬の処方量に地域差があり、その要因について更なる検討が望まれる。</p> <p>【学会・研究会発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西裕志, 吉田唯, 井上玲子, 竹村浩至, 南学正臣: NDBオープンデータベース上の慢性腎臓病にまつわるレセプト件数とその規定因子に関する横断的解析. <i>第61回日本腎臓学会学術総会</i>. 2018年6月. 新潟. 2. 井上玲子, 西裕志, 田中哲洋, 南学正臣: NDBオープンデータを用いた慢性腎臓病関連薬処方量の都道府県差に関する検討. <i>第62回日本腎臓学会学術総会</i>. 2019年6月22日. 名古屋. 3. Reiko Inoue, <u>Hiroshi Nishi</u>, Masaomi Nangaku: Prescription variation of drugs for chronic kidney disease among prefectures in Japan. <i>ISN World Congress of Nephrology</i>, Melbourne, Australia. April 12-15, 2019. 4. 西裕志, 吉田唯, 井上玲子, 竹村浩至, 南学正臣: NDBオープンデータベース上の慢性腎臓病にまつわるレセプト件数とその規定因子に関する横断的解析. <i>第64回日本透析医学会学術総会</i>. 2019年6月30日. 横浜. <p>【論文発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Reiko Inoue, <u>Hiroshi Nishi</u>, Tetsuhiro Tanaka, Masaomi Nangaku: Regional variance in patterns of prescriptions for chronic kidney disease in Japan. <i>Clin Exp Nephrol</i> 23: 859-864, 2019. 	